

2023 年度事業報告

一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会

1. 会員状況

2024 年 4 月 1 日現在、正会員 A 254 社、正会員 B 183 社、正会員 C 4,109 社 計 4,546 社となっている。

2. 事業報告

(1) 会員活動

a. 会員交流 (★:2023 年度新設)

2023 年度もそれぞれの活動の充実、活性化を図り、推進した。

(a) フォーラム

合計 397 名の方にメンバーとして登録いただき、引き続き下記のフォーラムを開催した。
2023 年度は、対面開催を中心に実施した。

- ・CIO エグゼクティブフォーラム(1 グループ)
- ・IT 企業トップフォーラム(東京 3 グループ+関西 1 グループ)
- ・IT 部門経営フォーラム(東京 5 グループ+関西 1 グループ)
- ・IT グループ会社経営フォーラム(東京 3 グループ+関西 1 グループ)
- ・IT グループ会社人材育成フォーラム(1 グループ)
- ・グローバルフォーラム(シンガポール 1 グループ)

(b) 研究会

2023 年度は、下記 15 の研究会を設け、503 名が活動した。新たに「デジタルマーケティング研究会」「ビジネスリレーションシップ研究会」を立ち上げた。5 月末からスタートし、会場、オンライン、ハイブリッドと、状況に応じた多様な方法で開催した。希望があった 11 研究会については、合宿を 9 月・10 月・11 月の 3 回に分けて実施した。

2023 年度研究会の成果報告は、2024 年 4 月 11 日より、『JUAS web channel』にて各研究会の報告動画を一齐公開する形で実施している。(研究会、研究プロジェクト、アドバンスト研究会、PARK2.0 成果を公開、一部を除いて 1 年間掲載予定)

<https://www.youtube.com/@JUASwebchannel>

- ・ビジネスデータ研究会
- ・IT インフラ研究会
- ・サービスマネジメント研究会
- ・企業リスクマネジメント研究会
- ・IT 投資ポートフォリオ研究会
- ・組織力強化研究会
- ・システム開発・保守 QCD 研究会
- ・AI 研究会
- ・デジタル変革リーダー自己育成研究会
- ・組織内起業家研究会
- ・トランスフォーメーション研究会

- ・人材育成事例(HRCS:Human Resource Case Study)研究会
- ・製造業 DX 推進アプローチ研究会
- ・デジタルマーケティング研究会★
- ・ビジネスリレーションシップ研究会★

(c) 研究プロジェクト

2023 年度も下記の研究プロジェクトを継続して実施した。
成果報告については、研究会と同様に『JUAS web channel』にて報告している。

- ・基幹系システムアジャイル適用研究プロジェクト

(d) アドバンスト研究会

個別グループでの設立申請を受け、審査を経て活動を実施する。
2023 年度は下記4つの研究会を実施した。成果報告については、研究会と同様に『JUAS web channel』にて報告している。

- ・情報共有研究会
- ・データエクスペリエンス研究会 – Data and beyond –
- ・IT エンジニア育成研究会
- ・企業の成長戦略と DX 投資研究会

(e) 未来ビジネスフォーラム

各社のデジタル化への対応について、様々な立場の方(CIO 経験者をはじめとした有識者)の参加を得て情報交換を進めている。2023 年度は 2 グループ、合計 23 名が参加して活動した。

(f) 情報セキュリティ WG

情報セキュリティに関する課題とその解決方法の共有を目的に、情報セキュリティをマネジメントする立場から、事例紹介・意見交換等を実施している。

2023 年度は、マネジメント WG、ソリューション WG、2 つのグループで実施、それぞれ 18 名、19 名、合計 37 名の参加を得て、6 月より会場開催とオンライン開催を交えて実施、年度末に成果報告書を取りまとめた。

(g) 関西

前述の IT 企業トップフォーラム関西、IT 部門経営フォーラム関西、IT グループ会社経営フォーラム関西のほか、2021 年度から、PARK(The place of advanced relationship in Kansai)をリニューアルし、ミドルマネジメントの情報交換、交流に留まらず、ミドルマネジメントの視点から共通する課題についてより踏み込んで議論し、その成果を発信することを目的に、「PARK 2.0」として活動している。

2023 年度は、「PARK 2.0」に 20 名が参加した。集合開催、オンライン開催を併用し、また 11 月に合宿も実施し、より活発な活動を実施した。成果報告については、研究会と同様に『JUAS web channel』にて報告している。

(h) JUAS アカデミー

IT に関する最新技術、関連施策に加え、業界や市場の動き、海外動向、経営に適用し得る考え方の時宜に即したテーマを選び、単発の会員限定の勉強会として開催している。

2023 年度は、IT 部門経営フォーラム、研究会主催 JUAS アカデミーを含む、様々なテーマについて、オンライン形式で録画配信も含め 19 本開催した。

b. 「認定個人情報保護団体」活動

2018 年 9 月 12 日に認定保護団体として活動を開始し、2024 年 3 月時点で、登録事業者は 978 社となっている。2023 年度も前年度に引き続き、C 会員を中心に登録を受付し、苦情相談等を実施した。苦情件数は 5 件であった。

c. セキュリティセンター（プライバシーマーク審査事業）

会員企業を対象にプライバシーマークの審査、付与等を実施している。

2023 年度、プライバシーマーク取得を希望する【申請件数】は、2,084 件となった。一方、【審査件数】は、最終的に 2,102 件となった。

審査件数の増加と、現審査員の高齢化に備え、新規審査員募集の継続、審査員育成の仕組みの強化、審査員グループリーダー制の充足に取り組んだ。加えて、マニュアルの改訂や審査員グループ会議での対面による審査員同士のディスカッション復活などを実施した。

審査業務基盤整備を目指した「プライバシーマーク審査業務刷新に向けた業務改革・IT 化構想」に着手し、3 か年、3 ステップでプロジェクトを推進する計画としている。

第 1 ステップ:申請事業者(会員企業)と JUAS 間の情報授受の電子化(2023 年 5 月稼働)

第 2 ステップ:JUAS セキュリティセンター内審査管理業務の刷新(稼働時期見極め中)

第 3 ステップ:付与機関(JIPDEC)と JUAS の電子化連携(JIPDEC の状況に合わせて実施)

第 1 ステップは、5月より大きな混乱もなく無事に開始することができた。稼働前は、紙での申請にしか対応できない事業者が一定数いることも想定したが、これまですべての事業者が電子で申請している。

第2ステップの「セキュリティセンター内審査管理業務の刷新」については、入会～申請～審査～付与までの工程の効率化に向けて取り組んでいる。「パッケージによるアジャイル開発」を協力会社と推進中であり、現在稼働可能時期を見極め中である。

会員サービスとして、プライバシーマークカンファレンスを、2023 年 11 月にオンラインで開催した。また、ホームページのリニューアルを機に紙で発行していた会報を廃止し、柔軟な情報提供を目指した。加えて、プライバシーマークに係る PMS の構築相談等の各種会員サービスも継続して実施した。

(2) 教育研修事業

a. オープンセミナー

2023 年度は、オンラインセミナーを中心に、会場のセミナーをオンラインでも受講できるハイブリッド形式、会場形式として開催している。

受講者数については、2022 年度に比べると回復傾向にあり、1 開催あたりの参加者数も増えている。2023 年度は、年間で 245 本開催した。(2022 年度年間開催数は 235 本)

要求定義、品質管理といった根強い人気セミナーのほか、DX で活用されるデータ・技術、アーキテクチャー、アジャイル開発関係、また、生産管理、経理業務等の業務知識を学ぶ講座も人気がある。また、新たに生成 AI の活用、それに伴う法務関連課題等をテーマに開催した。

<オープンセミナー開催実績>2024 年 3 月 31 日時点

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
開催数	294 本	175 本	210 本	235 本	245 本
受講者数	4,077 名	1,691 名	2,533 名	2,937 名	3,480 名

b. コース型研修 (★：2023 年度新設)

複数日の開催で、情報交換や他流試合が可能なコース型研修として、中堅層を対象に以下のコースをオンラインで開催した。

(a) 変革リーダーシップ勉強会★

徹底的に考え、想像力を働かせ自分なりの答えを導き出し、自信をもってそれを実行に移すことが出来る変革リーダーの養成に向けて、第一線で活躍する CDO、CHRO、起業家の講義研修と「ホンモノの地域課題」で取り組む 2 泊 3 日の宿泊研修(滋賀県高島市)、コーディネーターとの 1on1 で構成する「変革リーダーシップ勉強会」第 1 期を 6 月より開催。24 名の受講生が参加した。

(b) グループコーチング

1 グループ 4 人のチームで、1 名ファシリテーターがつき、毎週、参加者各自の目標を立て、それに対し結果を振り返るとともに、お互いの気づきを共有する。他者の視点も取れ入れながら内省することで、視座や実行力を高めることを目指している。ファシリテーターは、JUAS 会員企業の女性管理職が担当、6 月、10 月の年 2 回開催した。週次のグループコーチングのほか、実際に IT 分野で活躍している女性リーダーとの意見交換を通して、相互に研鑽した。

(c) JUAS カフェ

実際に活躍しているビジネスパーソンをカフェマスターとして招き、講義、対話による多面的思考、積極的な意見交換による人脈ネットワーク構築を目的として開催。計 3 回コースを 9 月に会場にて開催した。

コース構成としては、第 1 回はファシリテーションを体験、第 2 回、第 3 回はカフェマスターを招き、第 1 回の体験を活かしながら、意見交換を行った。

c. 新人・配転者向けプログラム

2023 年度の新人・配転者向けプログラムは、IT の基礎を学ぶ基本コースは 6 月下旬より 19 日間、プログラミングの基礎を学ぶ実機演習コースは 7 月下旬より 19 日間で開催した。

基本コースは、リピーター企業の申込と新規企業からの問い合わせが増えたことを受け、2 クラス同時開催とし、18 社 57 名と過去最多人数の受講となった。対面の演習が必要な講座は会場開催、PC での作業が多い講座はオンライン開催とし、学習の効果と運営の効率の双方が向上するように工夫を行った。

実機演習コースも、6 社 17 名の過去最多人数の受講となったため、補助の講師を増やすなどして、受講者の理解度や満足度が高くなるよう配慮した。

d. 教育研修の受託・講師の派遣（オーダーメイド研修）

要望に応じて企画提案し講師を派遣するオーダーメイド研修は、リピーター企業からの依頼が堅調であるほか、デジタル化への取り組みがさらに活発になっていることを受けて、新規問い合わせ件数も増えてきている。

開催形式は昨年に引き続きオンライン開催が主体であるが、会場開催が増えてきている。聴講型講義だけでなく、演習中心とした講座も人気となっている。内容としては、ボトムアップを目的とした「プロジェクトマネジメント強化」「文章力強化」「ロジカルシンキング」「ファシリテーション」といった定番コースが中心となっているが、年間を通して研修を実施するような、継続的な支援を求める相談も増えてきている。

2023 年度の開催実績は、35 開催、受講者数は 1099 名となった。

b. イノベーション経営カレッジ

「企業と人の心を変革するイノベーション」を実現する人材を輩出・支援する場である、イノベーション経営カレッジを2023度も引き続き実施した。人材育成の場である「プログラム」、イノベーションリーダーの交流の場である「コミュニティ」、イノベーション経営の研究を実施する「ラボ」の3つの要素で活動した。

IMCJ2.0 プログラムは、2023 年度(21 期)を、16 社 16 名の参加を得て、前半:2023 年 10 月、後半:2023 年 11 月、総括:2023 年 12 月に実施した。通算の参加者は累計で341名となった。

また、2018 年度より開催している、事業創造のための協創の場「Challenge Camp」については 17 名が参加し、実企業の新規ビジネス創出に向けて半年間の議論と成果物を行った。通算の参加者は累計で109名となった。

(4) 調査研究

a. 教育訓練パッケージ開発 ※厚生労働省受託事業

厚生労働省が募集する、「受講者の特性に対応した教育訓練手法の構築・普及促進事業」に応募、採択され、2023 年度 10 月～2025 年 3 月の 1.5 年間で、「企業内の DX 推進の中核人材を担う女性リーダー育成」の教育訓練パッケージを開発、プログラム施行等を実施する。

IT 部門や IT 子会社で業務に従事している女性は、業務の特性から多いと考えられるが、管理職やリーダー層として活躍する女性は非常に少なく、JUAS のフォーラムに参加する管理職層は、1 割にも満たない状態である。

本事業では、今企業において不足しており、求められている人材であるが、まだ新しい立場と言える「企業内 DX 推進の中核人材」となれる女性を育成することで、企業内において管理職やリーダーとして活躍できる女性を増やし、企業内の女性活躍を推進するとともに、企業における DX の推進に寄与するような、教育訓練パッケージを開発する。

「DX 推進スキル標準」の「ビジネスアーキテクト」を基に人材像を設定し、加えて企業内における女性を支援する仕組みを構築することで、女性リーダー層を育成する教育訓練パッケージを目指す。

初年度である 2023 年度は、次年度の本格施行に向け、動画研修、集合研修等の準備を実施するとともに、プログラムの内容検討・開発に加えて、プログラムの主要なポイントとなる「ビジネスアーキテクト」の集合研修と、女性の働き方についてのディスカッションを試行研修として実施した。

(5) 企業 IT 動向調査

1994年から「企業 IT 動向調査」を毎年実施しており、今年で 30 年目となる。企業の IT 投資、IT 導入状況、IT 活用の実態、組織・体制等、経年的な動向とトレンドについての俯瞰的に調査するとともに、ユーザー企業における重要課題を「重点テーマ」と位置づけ、様々な角度から深く掘り下げ、解決に向けた指針を提言することを目指している。調査委員会・調査部会を組成し、テーマ選定、調査内容の企画、分析、報告書執筆を行う。

調査方法としては、経年変化を中心に動向の把握を目的としたアンケート調査と、取り組みを深掘するインタビュー調査を併用する。本年度は設問に生成 AI 関連の項目を取り入れるため、調査部会メンバーでも調査テーマの選定段階から ChatGPT の利用を進めた。

2023 年度は、「転換期に挑み輝く IT 部門の役割」を重点テーマに取り上げた。アンケート調査は 9 月～10 月に、4,500 社対象に WEB サイトからのみに回答を限定して実施し、976 社からの回答を得た（回収率 21.7%）。

また 12 月にユーザー企業の IT 部門長(9 名)の参加を得て、オンライングループインタビューを実施した。報告書を執筆する調査部会メンバーが、参加者の IT 部門長の方々に調査から得られた結果と現場の肌感覚が一致しているか確認しつつ、具体的な課題感や取り組みをお聞きした。加えて、中小規模の DX 推進に意欲的な 3 社への個別インタビューも実施、報告に活かした。

情報発信の一つとして、11 月に速報版のクロス集計結果を JUAS 会員企業ならびに回答者に限定して公開し、12 月には速報解説動画も公開した。

本年度は、調査部会のメンバーとして大学教授 2 名の参画を得て、調査分析の深掘を実施している。2022 年度に実施した調査データでの分析レポートをとりまとめ、JUAS HP の情報プラザ内で公開している。

※本事業は 2012 年度より公益目的支出計画の実施事業として行っている。

以上